

2025 年度小倉奨励賞の受賞者決まる

受賞者：大矢康裕（株式会社デンソー）

研究題目：山岳気象遭難の防止に向けた気象解析と啓発活動

選定理由：

大矢康裕氏は、自動車部品メーカーにおいて技術職に従事する傍ら、長年の登山の経験と気象予報士としての知見を生かし、山岳遭難事故をなくすための調査研究・啓発活動を精力的に行っている。

大矢氏は、山岳気象遭難の防止に向け、遭難を想定した行動シミュレーション訓練を愛知県山岳連盟の気象遭難対策講習会等に組み入れるとともに、その内容をまとめて気象学会の秋季大会（大矢 2016）等で発表するなどの啓発活動を行ってきた。そのような中、山岳気象遭難を防ぐには、山岳特有の気象の理解と山岳気象の解析手法の習得が必要と考え、本業の傍ら 2019 年 10 月からの 2 年間、岐阜大学大学院工学研究科の研究生となった。そこでの主たる研究は、2019 年に発生した令和元年東日本台風による千曲川上流の大雨を対象としたものである（大矢 2020, 2021a, b；大矢・吉野 2024）。メソ気象モデル MM5 を用いた数値シミュレーションから、台風第 19 号が接近する環境下で山越えのフェーン現象による乾燥空気の流入が局所的なメソ前線を強化する一因となった可能性を示すなど、当初の目的とした気象現象の理解と解析手法の習得を達成した。

これらの知見をもとに、近年では、過去の山岳気象遭難の事例解析に取り組んでいる。気象庁の JRA-55（1958 年～）や JRA-3Q（1947 年～）、米国海洋大気庁（NOAA）の 20 世紀再解析（1836 年～）などの再解析データを活用して当時の気象場を再現し、事故の真因に迫るアプローチに特徴がある。20 世紀初頭などの特に古い山岳遭難事故においては、気象観測網も未整備で気象状況の解析技術も不十分だったこともあり、遭難事故の原因（気象要因）として誤った認識が定説となっている場合がある。気候変動の解析を目的として構築された再解析データを使って過去の山岳遭難事故の真因を究明するという大矢氏の取組は、「再解析」のメリットを多分に活かしたものといえる。

好例として、日露戦争前の 1902（明治 35）年 1 月、世界の登山史上で最大の 199 名の犠牲者を出した八甲田山雪中行軍遭難事故の解析がある（大矢 2023）。ちょうど同時期に旭川で日本の観測史上での最低気温である -41°C を記録したことも影響し、これまでの定説では非常に強い寒波が遭難事故の原因とされてきた。しかしながら、NOAA の 20 世紀再解析のデータや青森測候所（当時）の観測記録を使って検証した結果、八甲田山はそこまでの低温ではなかった可能性が示された。遭難の原因が当時の青森歩兵第 5 連隊の報告書に記載されているような「未曾有の低度（低温）」ではなかったという解析結果はこれまでの定説に一石を投じることとなった。近著、大矢（2025）では、新田次郎の小説「孤

高の人」で登場する実在の登山家加藤文太郎の槍ヶ岳北鎌尾根での遭難事故（1936 年 1 月）についての解析結果が示されている．そこでは，遭難事故発生前後の風系や降水量分布について NOAA の 20 世紀再解析データ等を用いた解析がなされ，当時，日本海側に日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）が形成されていた様子が可視化されている．

2021 年 9 月には，過去の遭難事故の解析結果や，従来から進めている行動シミュレーションを含む知見，教訓をまとめた書籍を上梓した（大矢 2021c）．また，登山やアウトドアを専門とする Web ページ「山と溪谷オンライン」への投稿や，ブログ（<https://ameblo.jp/oyamano-kenki/> 2025.6.1 閲覧）や SNS による気象情報発信，各山岳団体が主催する気象講座での講演，ラジオ・テレビ等のメディアを通じた啓発活動を積極的に行っている．このような活動は，山岳気象遭難の防止における気象情報の活用促進はもとより，広く知られている遭難事故への関心を端緒として気象への関心に結びつける役割も大きいと考える．

以上のことから，大矢康裕氏に 2025 年度日本気象学会小倉奨励賞を贈呈するものである．

参考文献

1. 大矢康裕，2016：山岳防災における DIG（災害図上訓練）の活用について．2016 年度秋季大会講演予稿集，510．
2. 大矢康裕，2020：2019 年台風 19 号に与えた中部山岳の地形効果の解析．2020 年度秋季大会講演予稿集，230．
3. 大矢康裕，2021a：2019 年台風 19 号で大雨をもたらした前線強化の要因解析．2021 年度春季大会講演予稿集，177．
4. 大矢康裕，2021b：2019 年台風 19 号で大雨をもたらした前線強化の要因解析 2，2021 年度秋季大会講演予稿集，264．
5. 大矢康裕，2021c：山岳気象遭難の真実 過去と未来を繋いで遭難事故をなくす．山と溪谷社，260pp．
6. 大矢康裕，2023：1902 年 1 月の八甲田山雪中行軍遭難事故の真実／鮮やかに蘇った 120 年前の天気図と気象状況．山と溪谷オンライン．<https://www.yamakei-online.com/yama-ya/detail.php?id=2518>（2025.6.1 閲覧）．
7. 大矢康裕，2025：不世出の単独行登山家、加藤文太郎の命を奪った豪雪。原因は近年でも豪雪をもたらす JPCZ だった．山と溪谷オンライン．<https://www.yamakei-online.com/yama-ya/detail.php?id=3727>（2025.6.1 閲覧）．
8. 大矢康裕，吉野 純，2024：令和元年東日本台風（台風 1919）による千曲川上流域の大雨のメソスケール環境場解析．天気，71，317-329．